

議事等	議事要旨
建設部長挨拶	気候変動により激甚化する豪雨に対応した新たな対策を議論していきたい。
議事説明	<p>【事務局より 1)～5)の説明】</p> <p>1) 目的とスケジュール</p> <p>2) 第 3 回検討委員会の意見等</p> <p>3) 方針と目標</p> <p>4) 考えられる対策</p> <p>5) 排水対策基本計画の骨子</p>
質疑応答	
方針と目標	<p>委員長) 「効果の見える化」の部分で、対策による佐賀駅北の被害軽減効果が他地点と比べて割合が少ないと感じるが、要因は何か。</p> <p>事務局) 駅北エリアの主要排水先である大溝川雨水幹線は、上流から水が集まる影響で排水能力が不足しているという点と、地形的にも上流から水が集まってくる地点であることが考えられる。直接このエリアに降った雨と、上流から流れてきた雨にも大きく影響されるため、他地点に比べると軽減効果は小さい。ただし、対策によって浸水継続時間・浸水深の低減もみられるため、今後上乘せ対策を実現することで更なる軽減を図る。</p> <p>委員長) 「効果の見える化」で、この 4 地点を選定した理由は何か。</p> <p>事務局) 現在の基本計画の重点対策区域と都市機能誘導区域の重なった部分の中で、緊急輸送道路上の地点を選定した。</p> <p>武藤委員) 「対策の見える化」の部分で、ためリッチ MAP には、田んぼダムに加えクリークの前放流を実施するエリアを追記してもらいたい。協力いただいている方々への PR や啓発にもなる。</p> <p>事務局) 今後、市内平野部全体で、現時点で溜められる量、今後対策によって溜めたい目標値についても整理していく。</p>
考えられる対策	<p>小城原委員) 水草の除去だけでなく水路の浚渫を継続的に進めてほしい。また、利用に支障がないよう排水が出来るのであれば、グラウンドで表面貯留しても結構だと思う。公民館等への雨水タンクの整備も小さいことの積み重ねでぜひ進めて欲しい。</p> <p>事務局) 国の制度も利用しながら引き続き水路の浚渫については行政と市民が一体となって進めていく。また、学校のグラウンド貯留はモデル地区を対象に、関係者と協議を進め、理解を得ながら検討する。雨水タンクは、市として積極的に設置を進めていきたい。</p> <p>平野委員) 県の排水ポンプ車の設置場所はどのように選定しているのか。</p> <p>県河川砂防課(オブザーバー) 過去に浸水した道路など、出水期前に地域の方と目ぼしい設置箇所を事前に確認している。その他の場所で、実際に浸水した場合は、まず現場を確認し、ポンプ車の設置が可能であるか確認した上で設置する。</p> <p>式町委員) 今回の計画に、市民が自助努力で参加するということを含めるのはとてもいいと思う。市民が出来る自助努力の選択肢の一つとして各戸貯留を提案して良いのでは。これまでの取り組みの効果についてもぜひ計画の中に記載して欲しい。</p> <p>委員長) 各戸貯留について、不要になった合併浄化槽を地下貯留に使えないか。</p> <p>事務局) 公共下水道への切り替え時に、合併浄化槽を雨水貯留へ転換利用することについては、下水道事業をやっている上下水道局と協議していきたい。</p> <p>事務局) 県の IF の取り組みのうち、排水機場の耐水化は非常に重要だと思うが、市内のポンプ場の耐水化はどれくらい進んでいるのか。</p> <p>満石委員) IF の対策として、耐水化を順次進めている。耐水化の進捗については後日事務局に提示する。</p>

	<p>ナルモン委員) クリーク的能力を活用することが大事だと思うが、クリークの事前放流を今後増やす予定はあるのか。</p> <p>県農山村課(オブザーバー) すでに佐賀市内ではほとんどのクリークで事前放流を実施している。</p>
<p>排水対策基本計画の骨子</p>	<p>委員長) 前回の改訂版から目次構成が変更された理由はなぜか。今回の改訂で改めて、短期対策、中期対策、長期対策を立て直すのではないのか。</p> <p>事務局) 中身の重複箇所を整理して構成し直した。段階別対策の、短期対策、中期対策、長期対策は継続対策のため基本的に変更しない。上乘せ対策については、まだ構想段階であり、今後調整を進めながら、段階別ハード対策に組み込んでいく。</p>
<p>まとめ</p>	<p>委員長) 気候変動対応として新たに考えられる対策について議論してきた。今回の意見も踏まえ排水対策基本計画の概案を作成していく。</p>